

活動報告

団体名	NPO 法人くまもとスローワーク・スクール
活動名	益城町仮設入居者支援を行う現地 NPO 法人スタッフの負担軽減を図る活動
活動期間	2016年10月～2017年9月
活動の成果	<p>1. 支える人を支えることの重要性</p> <p>被災地では、大きな団体が発災後半年で退いていくので、仮設支援は現地の団体に任せられます。ただ、その任せられた団体は被災地支援のノウハウを知っている訳ではないので、当初の負担がかなり大きいと思われます。その負担を補うべく、東日本大震災での支援経験を持つ臨床心理士や精神保健福祉士が仮設に同行し、被災者特有のメンタリティに沿った支援を行なうことで、地元団体の負担を減らすことに寄与できたと考えています。自身も被災者である支援スタッフの話に耳を傾け、その辛さに共感していくことで、スタッフの燃え尽きを防ぐことが出来たのではとも見えています。</p> <p>2. サロン活動のレパートリーを拡げることの意味</p> <p>集会所の活動は、支援団体に任せられ、ほとんどがお年寄り対象の作業活動になります。内容がマンネリ化していくと、来訪者が訪れにくくなり、安否確認と介護予防も出来にくくなります。そこで、避難所時代から来訪いただいている先生方に継続して来ていただき、①お茶を飲みながらリラックス、②体操で心と体を元気に、③フラワーエッセンスで気持ちをほぐす、というプログラムを組み込み、住民の方に楽しんでいただきました。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>2016年4月の熊本地震の発災以来、被災地の現状に思いを馳せ、温かなお金を寄付頂いたことで、熊本地震の被災地は確実に復興の道のりを歩んでいます。ただ、徐々に仮設団地に居続ける方と自宅再建に向かう方の温度差も出てきており、仮設に住み続ける方のメンタル面の維持が課題として浮かびあがっております。専門職として、その方々の“いまの声”に耳を傾け、出来ることを周囲の支援者と協力して行なって参ります。この先も熊本県の方に心を配って頂ければ幸いです。</p>

(活動のようす)

